

● オランダ施設園芸の取り組みについて

団員 岡 雄也

【オランダ農業の概要】

オランダは農産物輸出額では世界第2位、輸出入収支でも世界第3位の輸出王国である。しかし、国土は九州とほぼ同じ大きさで、国土全体に対する農用地は44.4%と、約半分も占めている。ちなみに日本の農用地の比率は12%。1人当たりの農地面積は日本の約8倍、農業就業人口一人当たりの生産額においては日本の約1.4倍と、効率的で生産性ははるかに高い。

特徴は①得意とする品目への集中。②施設園芸の安定、高品質生産、コスト減の実現。③企業化した農家育成環境の整備。④サポート体制の充実が挙げられる。

【TOMATO WORLD について】

今回視察で訪れたトマトワールドは、トマトの生産における先端技術を兼ね備えた1,500㎡の温室をはじめ、約100席のプレゼンテーションルームやキッチンなどを併設した情報と教育のセンターとして構成されている。施設には生産者や小売業者、行政関係者、学生及び海外からの視察団など様々な業種の方が来訪するとのこと。

トマトワールド設立は15年前に遡る。設立するまでは6つの生産者が個々に生産出荷を行う独立採算制をとっていた。しかし、電力の自由化に伴う共同購入のメリットや輸出における年間出荷量や低価格化に対応するため、共同体での運営に多くの利点があることから、元々トマト生産の勉強会グループだった6者が協働するようになった。



(展示ブースにてレクチャー)

設立当初は約50社から、5年間は途切れず経済的支援を受けられるパートナー契約を結んだ。金融機関や種苗業者、コンサルタントや研究機関など業種も幅広く、生産性やマーケティングやブランディングなど細かな項目まで調査研究し、機械化と合理化を図る。大学では新品種や栄養分の研究や新たな品質に向けた研究など、サポートの厚さを感じさせられた。

行政も積極的にバックアップしている。輸送路などインフラの整備をはじめ、市場調査や輸出における情報交換やエネルギーの許認可など様々な意見交換がなされているとのことであった。

これらの支援に応えるべく生産者はGlobalGAP（食品安全性システム）に従い、食べる人の安全、作る人の安全、地球環境の安全の3つの基本的概念に基づき、消費者の共感と信頼を得るために責任を持って生産活動に取り組んでいる。



(多種多様なトマトを見て驚く)

約50種類のトマトの展示・試食ブースで興味深い話を聞いた。日本では甘い赤いものを好むが、他方では緑のものを好んだり、楕円形のものを好んだり、色や形、堅さ、水分量、甘さ、酸味など様々な要素がある。こうした消費者ニーズの把握や市場調査に基づく研究開発に伴い、サイズの変更や糖度の向上に日々取り組んでいるそうだ。特筆すべきは、日本でも見られる一粒ずつの販売ではなく、ブドウのような1つの枝に幾つもの実をつけたものが、家族向けに大変好評とのこと。

【温室について】

オランダの施設園芸は、90%以上がコンピュータによって環境制御をしたハウスによるもので、ヒートポンプなどを活用したエネルギー効率の高い施設づくりが特徴であり、近年の温室の高さは約9mにもなる。ロックウールを活用し化学肥料は一切使わず、生物学的有機農法を行っている。害虫駆除は薬ではな

く、天敵となる虫を導入し駆除にあたらせるという。受粉においてもマルハナバチを使い人件費の大幅な削減につながったとのこと。



(ハウス内でのトマト栽培)

温室の周囲には雨水を貯める水槽があり、コンピュータで管理し必要なものを加えて温室に使用する。また、環境にも優しい生産活動を行うため、コージェネ（熱電供給）を発展させたトリジェネ（排ガスや二酸化炭素も活用）が普及

しつつある。天然資源に限りがある中で、持続可能な生産を行うための取り組みも盛んである。

【まとめ】

今日の生産者はトマトに関する豊富な知識や経験があるだけでなく、起業家としてエネルギーや環境工学、ICTの活用やロジスティクスに精通していなければならないと考える。研究・開発を推し進める大学との連携や温室栽培における農作業の軽減化、大規模農業への転換についても、世界の市場に対応するためには固定観念に囚われるべきではないと改めて感じた。経験と勘による管理や肉体労働が重きを占める日本の農業と、自然との共生を一番に、豊富なデータを基にした管理を実践するオランダ。

いずれにしても仕入れからエンドユーザーまで徹底したニーズの把握と、顧客満足度の向上における日々の努力がオランダ農業の発展の礎といっても過言ではないと考える。信用のある生産者が、商品への信用をつくり、お店に信用が付き、安心して購入してもらえる。これらの考え方は日本もオランダも同じであるため、取り入れるべきところは取り入れ、日本の農業政策につなげていきたい。